

意志を通すことになりたのであります、けれども、子供には一旦命じたることは、必ず守らしめざれば、遂に不従順なる習慣を養ひますから、子供には可成大様に、子供相應の慾望は之を成就せしめ、命令はなるたけ少くして、大切なることばかりに止めたいものです。

嗚呼右にある如き扱ひを受くる子女の不幸さよ、此の子供の母親も、實に子供はうるさいものと云ひたる一人なりき。あわれ、後の妨害とならざる限は、餘計なる命令を下さずして、後の爲よからずと思ふことのみ止め、一旦止めたらば、必之を實行せしめられれば、遂には従順なる習慣を得て、うるさからぬ、よき愛らしき兒となりましよう。

實に子供は無邪氣なるもので、何も知らぬものではありませんが、恰かも水の如く、威愛宜しきを得ざる人

には、之に應じたる處置を取るものです。

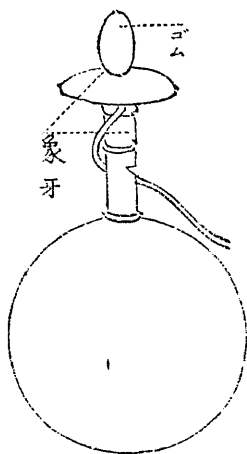
育兒のはなし

波多野とく

小兒を育つることに就きては書物をもよみ又人にも聞きたりしが其説ける事は果して實行し得らるゝものなやと己れの小兒につきて試みしに或は成功せしこともありあるは又失敗せしこともありき世の母人の參考にもどその一、二つを述べん

一、乳汁を呑ましむる事、生後しばしは何物をも與へず五六時間の後始めて己の乳を呑ましめ爾後二時間を隔つる毎に與へ一週間の後に至りては二時間半とし漸次其間の時間を長くして五週間の後には五時間を隔て、與へたりされば朝七時に充分に呑ましめ置けば正午までは少しも乳を求むることなく正午頃又

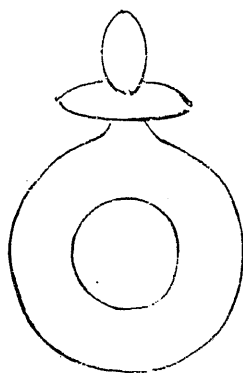
充分に呑ましめば午後も五時頃まで與へざるもなほ
 おどなく遊びたり斯く習慣をつくるまでは小兒は
 尙時々乳を呑まんとし或は半ば眠りし時などは口淋
 しきさまをせしことありきかゝる時はいつもおしや
 ぶりを與へき小兒はさまで空腹なるにあらざればよ
 く之に満足して眠りたりそのおしやぶりの形には種
 々あり其中



この圖の如き
 筋のあるもの
 は軟弱なる小
 兒にはその先
 重く且紐にて
 結べるが故に

時々乳首の部のゆるむことありて便利ならず己れの
 用ゐて衛生上、便利上尤もよかりしは左の圖の如き

形にて各部とも皆護謨にてなれるものなりき之を度
 々沸養して用ゐしなり



かく時間を隔て、規
 則正しく乳を與へし
 爲に乳は充分に溜り
 小兒は満足する程に
 呑みしかば睡眠中も
 目の覺ひる毎に乳を求むることなくかつ便通も幾分
 か規則正しくなりて赤兒をもてる割合には親もよく
 眠ることを得たりき然れどなほ時々目を覺して泣き
 出づることありしかば務めて夜十時頃より朝五時頃
 までは乳を與へずして通して眠らしめんとしたりし
 もそは遂に成功せざりき

一、抱きわけざる事、小兒は兎角抱かるゝことを好む
 ものなれば抱かずして育つることは到底出來がたき

ものなりとは豫て聞き居りしことなれどこれも必ず習慣なるべし試みばやとて生れてより乳を吞ましむる時の外はすべて抱きあげざることにし常に床の上に臥せしめ天井より花輪を釣して之れに長さ糸をつけ置き傍にて裁縫し或は讀書しつつ時々この糸を引きて花輪を動かしむその動くを見て小兒は喜びて往々聲を發することもありさかくして勞るれば花輪を見ながら眠りにつき覺ひれば復これを見て遊べり其間たま／＼便の世話をなすのみにて手間をとらざるが故に忙しき身にはいと／＼便利に感じたりき小兒はまた充分に身體をのばし得るを以て骨髄の曲る憂もなく發育も充分ならしむることを得べしさて今日に至るまでこの習慣ありて始めは己れの膝にて眠るもしばしの後には窮屈を訴ふるが如く平臥せしむればさもこゝちよげに熟睡す且又始めより抱き寐を

せざりしたため今に至るまで一人にて眠ることゝ心得居るものゝ如し乳を吞ましめ終りて床上に横たふればそのまゝ直に眠るなり

一、毎日入浴せしめし事 赤兒生れてより身體に障りなきかぎり一日として入浴せしめざることなかりさかくて小兒の皮膚の機能の活潑なる爲かいと發育よくおしなべて風邪に犯されざりし様覺ゆるなりされば毎日のことゝて世話多きやうなれど結局は却て手のかゝらざるの利益ありき

一、玩具の事 小兒は何にても嘗め易ければ色のはがるゝ玩具は一も之を與へずたゞ左の種類のものにて毎日よく遊びたり

護謨犬、瀬戸犬、太鼓、簡單なる畫本護謨鞆

右の中護謨犬と瀬戸犬とはよく沸養して與ふることを得しを以て嘗る時期には尤も重寶なりき畫本は小

兒の甚だ好むにも拘らず適當のものなきに困しめり
以上は生後一年半までの小兒につきての經驗なり

消えぬ記憶

ひさ子

前號家庭の欄に、子供は印象を受くることが、蜜蜂のやうで、これを永く保つことは、大理石のやうであるといふことがございましたが、誠に其通りでございませぬ。

私が九歳か十歳の時に、夏の或日、家内中で、川原にあそびに出かけました。さうすると、一人の男が、大急でかけてまゐりまして、

向の川の中に、子供が死んで居る。

と申します。私は、何だか氣味がわるくなりましたがそこが所謂、こわいもの見たし。で、兄についてかけ

出しました。さて行て見ますと、果して四歳位の男の子が、白い浴衣を着て、川の底に仰向に横つてあります。そこは、水が極淺いものですから、ありくと死顔までが分ります。此時、私はまだ子供ながらに、一種いふにいはれぬ感を起しました。

此時の、川の其邊の様子、死兒の衣服、死顔、及見た時の感じは、今にせうしても忘るゝとができません。

又私の友人、これは八歳位の時に、冬の或朝、

向の御社の便所の中に、人が首を縊てあるそうだ。

といふことをききました。そりやこそ。といふので、

これも兄さんと一しよに、かけ出しました。そうすると、其首くゝりは、もはや便所の中より出され、土の上に置かれてありましたが、そこで怪我をしたと見えて、頭には血がついて居り、をりしも積つてある雪

に、にじんでをります。これで、十分、こわい、といふ心に、